

文法をやさしく

ぶん ぼう

第5回 Vてきた・Vていく

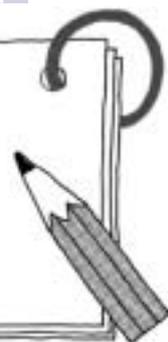
だい かい

学習段階：初級後半

がくしゅうだんかい しよきゅうこうはん

キーワード：アスペクト、視点、変化

し てん へん か



今回は、「Vてきた」「Vていく」を取りあげます。

1. 動きの見方、変化の見方

うご みかた へんか みかた

まず、〈1〉〈2〉を見てください。

〈1〉バスが走ってきました。

はし

〈2〉バスが走っていきます。

はし

バスが走っているところを見ている話し手と、バスの位置関係の違いがわかるでしょうか。〈1〉は、バスが近づく方向に動いているときに言いますが、〈2〉はバスが話し手から離れる方向に動くときにしか言いません。これらは、話し手が物の動きをどう見ているかを示す表現で、初級の中ごろまでに学習します。

今回とりあげる「Vてきた」「Vていく」は、物の動きの見方ではなく、できごとの変化の見方を示す表現で、これは、初級の後半で学習します。

たとえば、「川がきれいになる」という変化を〈3〉〈4〉で表した場合、話し手の見方はどう違うと思いますか。

〈3〉ゴミが減り、川がきれいになってきました。

へ

〈4〉ゴミが減り、川がきれいになっていきます。

へ

いつものように、いろいろな例を見ながらいっしょに考えてみましょう。

かんが

下の文章には、40代の作家が、読書の喜びを知ったころの思い出が書かれています。小さな男の子が絵本を開いているところを想像してみましょう。

飛び出す絵本を開けば、中の絵は読んでいる人に向かって飛び出しますから、aの例は、〈1〉〈2〉と同様、動きの方向を表しています。

bの「ページを開いていく」男の子は、ページを開きながら、どこかへ移動するわけではありません。bは、男の子が絵本のページを次々に開くようすを表しています。本のページを順番に開けば、物語は先へ先へと展開します。あるページから飛び出した絵、景色や動物などは、次のページではまったく別の場面が変わっていたりするでしょう。しかし、それぞれのページの絵はお互いにバラバラではありません。ページごとに飛び出す絵は変わっても、それらは一つの物語としてつながっているのです。「ページを開いてい」けば、読者は、そのつながりや展開を読み進むことになるわけです。

このような「Vてきた」「Vていく」では、Vの動作や変化が長い時間続いたり、何度も繰り返されたりするものでなければなりません。

同じ文章の中に、次のような表現もあります。

おな ぶんしやう なか つぎ ひやうげん

…ただ、今でも鮮明に記憶に残っているのは、その絵本はページを開くたびにa様々のものが立体的に飛び出してきたということ。その驚きと感動といったらなかった。(中略)…物語を読みながら次のページを開くときの胸のときめきはいまだに忘れられない。(中略)
…bページを開いていく喜びや楽しさというもの。原点はやはりあの飛び出す絵本が教えてくれたのではないかと思う。

大崎善生「追憶の一冊」18-39より
2003年1月14日『産経新聞』p.18
(下線およびa bは荒川・木山による)



鮮明に…あざやかに、はっきり

立体的に飛び出す…pop-up 3-dimensionally

胸のときめき…the heart-beats fast for joy

その驚きと感動といったらなかった…その驚きと感動は非常に

大きかった いまだに…いまでも 原点…基本、the origin

おお かんどう かんどう ひじやう おお かんどう かんどう げんてん きほん

c それ以降どのくらいの本を読んできたかわからな
いが、…

同記事1 .99-101
どうきじ

これは、筆者が飛び出す絵本の喜びに始まる、おそらく30年以上の読書体験を思い出し、現在の自分にまでつなげてみた表現になっています。

2. アスペクトと「Vてきた」「Vていく」

ことばでできごとについて表現するときは、できごとの始めや、終わり、続いていることなどを表現することになります。たとえば、「Vはじめる」「Vです」はできごとの始まりを表します。また、「Vおわる」「Vやむ」は終わりを、そして、「Vている」「Vつづける」は続いていることを表します。このような始まりや終わりを表す文法形式をアスペクトと言います。b、cの「Vてきた」「Vていく」も、動作が続いたり繰り返されたりしていることを表す表現で、このひとつです。

実際の使用例を見ると、〈1〉〈2〉aのような動きの見方を表すものと、b、cのような動作の繰り返しや変化の見方を表すものの区別がはっきりしない次のようなものもあります。

〈5〉雨がふってきました。

3. 「Vてきた」「Vていく」の例

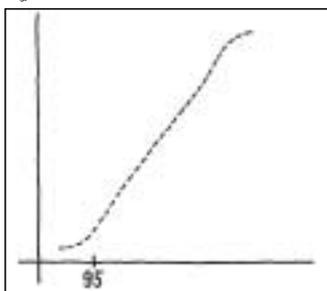
それではもう少し例を見てみましょう。はじめに「Vてきた」の例です。

〈6〉春がきて、だんだん暖かくなってきました。

〈7〉コンピュータで生活がだんだん便利になってきました。

〈8〉新しい生活に少しずつ慣れてきました。

〈9〉日本では1995年ごろから携帯電話を使う人が急に増えました。



〈6〉～〈9〉は「～く／になる」「慣れる」「増える」などの変化が話し手にとっての現在まで続いていることを表しています。この用法では「だんだん」「少しずつ」「急に」という変化のしかたを表す副詞とともに使われることがよくあります。

次に「Vていく」の例です。

〈10〉漢字は100字覚えれば、あとは覚えやすくなって

いきますよ。

〈11〉今後たばこを吸う人はだんだん減っていくでしょう。

この用法でも「だんだん」などの副詞とともに使われることがよくあります。また、話し手にとっての今から見ているので、「今後」などの、ある時からという意味を持つ副詞ともよく合います。「Vていく」はこのように現在から変化が続くことを表します。

〈12〉父は工場で30年間働いてきました。

〈13〉大学に入る前にいろいろな仕事を体験してきました。

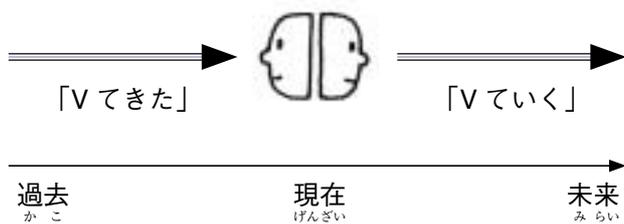
〈14〉医者：決められた運動をしていけば、来月退院できます。

〈12〉は、お父さんが今日まで30年間働き続けたことを、〈13〉は、大学に入る前に何年間か何種類も仕事をしたことを、〈14〉の例は、毎日リハビリ（medical rehabilitation）を繰り返していることを、表しています。

4. 「Vてきた」「Vていく」の方向

最後に、今まで見てきた「Vてきた」「Vていく」についてまとめてみましょう。

移動を表す「来る」という動詞は、話し手の今いる場所に向かう方向を持っています。それに対し、「行く」は、話し手が今いる場所から遠くに離れる方向を持っています。「Vてきた」「Vていく」もそれぞれもとなる「来る」「行く」と、この方向性は基本的には同じです。「Vていく」は話し手にとっての今という時間から遠くに離れる、つまり、未来へ向かっての方向を、「Vてきた」は話し手の今という時間に向かう、つまり、過去から今へ向かう方向です。図で表すと、次のようになります。



参考文献

庵功雄・清水佳子 (2003) 『日本語文法演習 時間を表す表現—テンス・アスペクト—』スリーエーネットワーク

砂川有里子 (1986) 『日本語文法セルフ・マスターシリーズ 2 する・した・している』p.43-45 くろしお出版

このコーナーについてご感想やご質問があれば送ってください。

担当者：荒川みどり (日本語国際センター客員講師)、木山登茂子 (日本語国際センター専任講師)